日本キリスト教団　吾妻教会報　No.15　2017 年 2 月 5 日発行

あ が つ ま

〒377-0801 東吾妻町原町 444－9
℡0279-68-4730

『 幸福のパラドックス 』　牧師　望月 達朗

NHK 教育テレビ（E テレ）に、『オイコノミア』という番組があります。日常生活の疑問や悩みを、経済学の視点から見直してみようという番組です。ある回の放送では、『幸福』をテーマに、経済成長によってGDP（国内総生産）や収入が上がれば、自動的に幸福度も上がるのかということが種々のデータから紹介されていました。番組講師の大竹文雄教授（大阪大学社会経済研究所）によりますと、どうも「自動的に」とはいかないようです。確かに、GDP や個人の収入が上がることで豊かな生活は得られるのですが、一定の幸福度まで辿り着くと、それ以後は、ほとんど上昇が見られず、時には下がってしまうこともあるようでした。この現象を、経済学では「幸福のパラドックス（逆説）」と呼んでいるようです。どれだけ金銭的な豊かさを手に入れても、人はすぐにその環境に慣れて、物足りなさを感じてしまう「順応仮説」、相手の所得と比較して“上には上がいる”ことを知り、なかなか満足感を得られない「相対所得仮説」など、要因は色々と考えられるようですし、何を基準に幸福と感じるのかも人それぞれなのですが、少なくともお金だけが人の幸福を約束してくれる訳ではないようでした。

※出典　内閣府「国民生活に関する世論調査」、「国民経済計算」

聖書の言葉は、上述とは逆の意味で、「幸福のパラドックス（逆説）」に満ち溢れていると言えます。例えば、「貧しい人は、幸いである」（ルカ福音書 6:20）、「悲しむ人々は、幸いである」（マタイ福音書 5:4）、「わたしは弱いときにこそ強い」（コリントの信徒への手紙Ⅱ 12:10）など、どれも逆説的です。ちなみに、「逆説」という言葉を広辞苑で引いてみますと、最初にその典型例として「貧しい人は、幸いである」が取り上げられ、「真理に反しているようであるが、しかしよくよく吟味すれ

ば真理である説」という定義が続いています。「逆説」の典型と言えば、聖書であると言っても過言ではないのかもしれません。しかし、「よくよく吟味すれば」と定義づけられているように、「逆説」に込められた真理とは大変分かりにくいものです。なぜ貧しい人や悲しい人が幸いなのか、なぜ弱いときにこそ強いのか…。聖書はその理由として、「神の国はあなたがたのものである」（ルカ福音書 6:20）から、「その人たちは慰められる」（マタイ福音書 5:4）から、「（キリストの）力は弱さの中でこそ十分に発揮される」（コリントの信徒への手紙Ⅱ12:9）からだとしています。通常であれば悲観的にも思える、貧しいこと、悲しいこと、弱いことの内に、主イエスが語られるような神の力や慰めに与る幸いが備えられていることを聖書は約束しています。それでもなお、抽象的で分かりにくいという声があるかもしれません。しかし、だからと言って、人の欲求を満たす金銭的物質的な、目に見えて分かりやすいものが、私達の幸せを保証してくれる訳でもありません。

故藤木正三牧師の手記の一つに、次のようなものがあります。「『神のない幸福ほど不幸なことはない』と言った人がいます。彼とて初めからこんなことを考えていなかったと思います。若いころ幸福を夢み、それに向かって努力し、つぎつぎと問題を克服して快哉を叫んだこともあったでしょう。しかし、一切が空しい狂奔に過ぎなく思えるような体験を味わいました。愛する人も失いました。そして人が目標とすべきものは何かという問いに直面させられました。この短い言葉の背後には、その問いに迫られながら生きた一人の男の長い歴史があるのです。こういう言葉は一生に一つか二つしか言えません」。人生の様々を歩んできたからこそ、「見えるものは過ぎ去」（コリントの信徒への手紙Ⅱ4:18）っていくことを味わい知っており、それ故に多くを語らず、「目に見えないものに目を注」ぐ…そのような信仰者の証が、教会の礼拝にも満ち溢れているように感じます。

「わたしの思いは、あなたたちの思いとは異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いは、あなたたちの思いを、高く超えている」（イザヤ書 55:8～9）。主イエスが語られる逆説の世界には、私達の思いをはるかに超えた神の御業が満ち溢れています。私達には、分かりにくくて当然だとも言えます。けれども、だからこそ、自分の思いや知恵や力が過ぎ去って行ってもなお、信仰者は希望を抱くことが出来るのです。主イエスが語られる「幸福のパラドックス」の世界を、これからも、それぞれの人生の中で味い知り、語り継いでいくものでありたい

と願います。

～私と聖書の言葉～

✝✝ **福田　一也さん** ✝✝

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書 15 章 12 節）

私の好きな聖書の箇所です。私がこの言葉に出会ったのは、小学６年生の時に行ったバイブルキャンプでのことでした。当時、そのキャンプを過ごすテーマが、この箇所をかみ砕いたもので、「愛されている者として愛し合う」でした。初めて行ったバイブルキャンプでの思い出の言葉であり、当時幼かった自分には、かみ砕かれた言葉であったので、とても理解しやすく浸透していきました。

今回、自分の好きな聖書の言葉を書いてと言われて、最初に思いついたのが、小さい頃から心に残っていたこの言葉でした。今では、この言葉を深く考えることができるようになったので、今後を生活していく中で、この言葉を留めていきたいです。

吾 妻 教 会　冬 の 活 動 写 真 館

★12 月４日（日）新島学園聖歌隊クリスマスコンサート・教会バザー

★12 月 17 日（土）CS 子どもクリスマス会

★12 月 25 日（日）クリスマス　礼拝・愛餐会・祝会

★1 月１日（日）元旦礼拝

★1 月１４日（土）土曜クラブ新年会

新島学園中高クリスマスコンサートに来場された稲川房子さんが詠んで下さった短歌です。

讃美歌は　神に届かん　若きらの
清らな心　晴れやかな声